

古今学雅抄

十九

和書門			
二七三四	一七	九	一六
號	函	架	册

内閣文庫			
二七三四	一七	九	一六
號	册	架	函

内閣文庫	
番號	和 27348
冊數	16 ( 15)
函號	200 54



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak 2007 TM Kodak



古今和歌集卷第十九

雜幹

短歌

ざんをいといふ人あきと。ねさうていといふ人も也  
風降乃あまなり。短歌いけいさうよ。あまき短歌あとも  
いとおつらう。短歌あまあまよる。あまをいさう  
いさうの長歌よる。あまを忠告長歌あ乃おくす  
のまねむ。あまいけ短歌あとのあまあま。あまや短  
書い。いほれあま。あま長歌とま。千載集よ。あ  
あま乃例を。あまき。あまの短歌あとのあまあま。あ  
あまあまあま。あまき。あまの短歌あとのあまあま。あ  
あまあまあま。あまき。あまの短歌あとのあまあま。あ  
あまあまあま。あまき。あまの短歌あとのあまあま。あ

明治二十二年

皇國圖書

おくらしめしは長年とさす。けは款のやうなり  
しあるをよとせもす。類考のれなり。古来乃羅也  
卅一字、彼も款と云。そのなま三十一字のの田事と  
しひかてれども、かゝる類也。類考の文より、教ハおな  
くわども。一句二句のありし、をいりて、類考  
と云。係成ハ。卅一字、類考に記。こゝも、かゝること  
中。秘説より三十一字、れり。初乃み文字より、り  
也。その終のせ。なる。り。も、  
と、か、物也。か、り、た、れ、  
か、な、初、り、り、た、る、物、も、か、  
平、と、  
ま、ら、初、乃、み、文、  
が、な、初、り、り、た、る、物、も、か、

縁より、れ、詞、よ、ひ、れ、く、さ、事、  
繩、な、れ、  
な、  
類、の、  
ら、れ、  
を、  
中、  
い、  
か、  
字、  
は、

古今抄十一

るこをヤ夏あり回一も長し秘と一

〓

後人志くせ

あきしり乃ちわらふつあよおのひろあけりうあはははよ  
あまののこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ

つくりあつて物なり。順和よの結菓とま結び

あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ  
あまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝあまのこゝ

古入抄十九

よゆ蝶とちりしてしきとむかひよきうけぬくま  
 とるふらるめあてくゆあうはくはらりー兼乃  
 むいせとらあ甲と百とむかとおひらる。一炊乃まなれ  
 穢晋ちまあよきとてしきせさくまのゆあうくあ  
 とらあり

昔乃ゆきとあはくたせらるるを能くか  
 おひらりうんあまおし人ありぬき。兼乃ゆきあ  
 ひらぬてちせれくと歌いあまらせんはあまあま  
 ちあちららだ白あはあるも乃神よあまのまあま  
 おりぬき。兼乃ゆきあまあまあまあまあまあま  
 あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
 人あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

ゆきあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
 うきあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
 兼乃ゆきあまあまあまあまあまあまあまあま  
 人のまあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
 ちらり

ゆきあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
 うきあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
 兼乃ゆきあまあまあまあまあまあまあまあま  
 人のまあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
 ちらり



あはれなるあはれなるあはれなる

浦乃汐見、志んよす、目ら、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ

はれなるあはれなるあはれなる、あはれなるあ







ぬき也肉裏あり  
ちるし海をりハカ傷陣をさるる  
中乃陣き由裏の門おるねど  
乃如や  
つ乃陣き由裏の門おるねど  
乃如や  
つ乃陣き由裏の門おるねど  
乃如や

おの  
老  
こ  
あ  
又  
石

はるかに思むと也 文集曰海中にあり二神山  
山上より生不死藥 蓬萊の古も今も只  
ありてはるかに思むと也 二神山の蓬萊 方丈

瀛洲 方丈

若くはあはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
まじくあはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那

あはれなるを思ふ

あはれなるを思ふ

あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那

あはれなるを思ふ

延喜七年六月八日崩三十六

伊勢

あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那  
あはれなるを思ふてくればまじくおひひくるか那





雨乃ろあはるりなり

三景の心乃紅雲の心をさるる月とていふの心

乃ろあはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

龍潜舟

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

龍潜舟

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

龍潜舟

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

龍潜舟

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり

あはるりあはるりあはるりあはるりあはるりあはるり







けつしりつはむと。女よそをてらざり  
 花とみくどんととむとむし女もむくくまは海乃女は  
 もちとんとくきよりをさんとむしを女乃くく  
 ちと海乃くくありと也。うしてはくそと  
 ちんちり女よよくくく。精を女もくく振乃女と也  
 寛平乃木時とむ乃女の前ノ合の事

在原たしむるよ

秋風はくくひぬじ業はくくしむてよとくくくくも  
 あつちよはほいほいぬきぬきちあはく海乃くくそ  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ちんちんとくくくくくくくくくくくくくくくく  
 きせととそねは付てくくくくくくくくくくくくく

まうくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 屋がれくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 びくくく也。後拾遺集乃序は。秋のむくくくく  
 ちくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あつちよはほいほいぬきぬきちあはく海乃くくそ  
 甲冑乃雪鉄吹くくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくく

清原あやむ

冬まくくく乃隣のちくくまねく申垣くくく  
 ちゆくくしありあくくくく乃くくくくのくくく申垣く  
 花乃くくく雪乃風よあくくくくくくくくくくく  
 ちんちんとくくくくくくくくくくくくくくくく

ともなうとありまらぬ

野

あまの

るにありまらぬの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

指よりたはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

おほまはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神

まはるまはるの神とてたはるまはるの神とてたはるまはるの神



これあやうし

あひまきくはる教もく有る人よ月あまのひを  
あひまきくはる教もく有る人よ月あまのひを  
あひまきくはる教もく有る人よ月あまのひを  
あひまきくはる教もく有る人よ月あまのひを  
あひまきくはる教もく有る人よ月あまのひを

人あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
人あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
人あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
人あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
人あつる月あつる月あつる月あつる月あつる



事なをいひくあつる月あつる月あつる月あつる  
もひのうつくしき

實平の時時とていふ事合の事

お原お原

あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる

信人あつる

あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる  
あつる月あつる月あつる月あつる月あつる

よ自文





隠<sup>ね</sup>泥<sup>ね</sup>よあわす縁<sup>えり</sup>ぬるふみよあてて。あましのおぬるは  
 多<sup>おほ</sup>てま<sup>ま</sup>くま<sup>く</sup>ぞ。我<sup>わが</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>なりひるう<sup>う</sup>と<sup>と</sup>

ね<sup>ね</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>き<sup>き</sup>泥<sup>ぬ</sup>池<sup>い</sup>よあ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>尊<sup>たかし</sup>なり。根<sup>ね</sup>尊<sup>たかし</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>

菅<sup>すげ</sup>根<sup>ね</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>れ<sup>れ</sup>いと<sup>いと</sup>ひ<sup>ひ</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>き<sup>き</sup>

だ<sup>だ</sup>る<sup>る</sup>れ<sup>れ</sup>屋<sup>や</sup>う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>も<sup>も</sup>物<sup>もの</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>だ<sup>だ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>一<sup>ひと</sup>張<sup>はり</sup>

ぬ<sup>ぬ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>根<sup>ね</sup>又<sup>また</sup>字<sup>じ</sup>さ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>ね<sup>ね</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま

と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>一<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>一<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>な</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>

あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

玉<sup>たま</sup>禪<sup>ぜん</sup>と<sup>と</sup>玉<sup>たま</sup>禪<sup>ぜん</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

世<sup>よ</sup>よ<sup>よ</sup>人<sup>に</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>乃<sup>のち</sup>く<sup>く</sup>海<sup>うみ</sup>と<sup>と</sup>糸<sup>いと</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>糸<sup>いと</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>



中あわびのいのちの飯と死宿んくはくらく人むし思ひたて  
 打ちさし鼻をぞひつゝさだまらふそふ其がさひり〜  
 しあはむらひとまひてゆく人さうらとみくあり〜  
 紅葉の心を頼りねば人をおくふらふ心はあはれなり  
 人をうらむおのりのこもくもくおひらうちであはし  
 し。今こそそれをもあはれまねど。人をあくふらうらむを  
 つむぎ世ののさか。あふらぬてうらむひつゝ物也  
 飽を成ふゆゑなり  
 くら〜我が心は甚乃弱されや聖きひそ〜  
 人よいらお〜心乃弱を野飼よさう〜  
 を〜うら〜しては〜也。半さるをさうらひよ〜  
 聖きひつゝよ



聖乃〜我の屋うりのあつたや我ら人のほおるるん  
 うらひのまは乃らぐりれお果が〜おとら  
 さ〜や人のほおるるあつた也。古田果を〜  
 お〜ひ〜  
 聖きひつゝひ〜  
 ち〜  
 と〜  
 聖乃〜  
 おれ〜  
 ぬ〜  
 と〜





かう記

平らな海にわたるあまのつらや人の心をたてふかやま  
 雲の影やうなほ海乃らよとわけてもまの物あり  
 車乃あは海にや人のこころ乃いつまるとくはく  
 危じつと連降回山をあらまきやとくも人もあは  
 らねを我らひ乃をねあふよせしり  
 伊勢  
 誰かちかろく乃稽せつらとを我身を何よま  
 ちにはあはあちかろく乃稽さしりあまきよひつら  
 ちよあはくくはれをいまころかたを何よま  
 と也。苗集雜記よ  
 帯にありあは物ははの玉乃あはれ稽し我とあり

といふは中よそ海に橋をはくさるあは  
 我身のあはくをいそんとく稽もつらと  
 甲はくをぬきとばくさるあは稽もつらと  
 あはく今まのあはくさるあは稽もつらと  
 あはく甲いそんとく稽もつらと  
 云。弘仁三年六月遣使遣長柄橋とあは稽  
 弘仁三年より光孝乃所時より七十年ま  
 をつら

後人志

まあなれどあはくさるあは稽もつらと  
 人のあはくさるあは稽もつらと  
 うらよ記かやのいそとく稽もつらと

乃よ記人きまのしとてあはれをあらはせ  
も身もよきまのしとてあはれをあらはせ  
よもくいよ記也 まあひの美也 まあひのまよ  
にみされともあはれをあらはせ

真風

あやとれあはれまのしとてあはれをあらはせ  
おり人あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ

あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ

あはれまのしとてあはれをあらはせ

あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ

あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ

あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ  
あはれまのしとてあはれをあらはせ

大捕

あはれまのしとてあはれをあらはせ





お朱の歌

牙はさてに心をぞもたふまはさるる一つ井よみいづらとあるとある人  
 身どころしきとてわが心をよもはるるうらうらとくも放埒はなは  
 もいしはれぬもつらとてあはれぬ心をもとくもいふたをいふ也  
 だつらふら放埒よせしめさるるまをいふらとていふ  
 人のこころしきあつらひさるる心をもいふらとていふもいふ  
 牙をいささてぬ心をいふらとていふむらと

ちの歌

ちの歌乃とみおまの牙はありぬれとんさるるぬ物よりそるる  
 ちの歌乃とみおまの牙はありぬれとんさるるぬ物よりそるる  
 ちの歌乃とみおまの牙はありぬれとんさるるぬ物よりそるる  
 あはれぬ心

讀人石也

あはれぬ心

梅乃花とてこの後れとてなれやとて物とて人の心とてん

こころのりのるるこころをいふこそ梅花のさたての後  
 乃とてれとていふもの人とのつらとていふをいふに  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教し奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と

法皇より川よあまの川よりあまの川よりあまの川より  
 下りてけりていふをいふていふていふていふていふていふ

あまの川

こころのりのるるこころをいふこそ梅花のさたての後  
 乃とてれとていふもの人とのつらとていふをいふに  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と  
 ちの歌乃とみおまの人の心とていふらとていふ又教奇と

かひあさくまそていさなりと也。あつを桂川なりと云の  
うひまやき乃あひたり。猪叫山峽と云氣なり  
こび〜ハ日記〜也。猪をま〜と云。申字たり  
梵語ハハトキ〜のヤ。日本語も林乞語ハ  
〜を。也を〜のひ。鳥をハ他ハ種ハと云也。又  
猪乃名をたれこと云。目吉よ〜ルカハこと云社  
あま〜又いそのあ〜と云。道ハ屋ハ後也  
野〜と云  
世といひ本ハ〜と云。い〜と云。深の麻乃衣也  
ひね〜と云。事ハ〜と云。深のあ〜と云。いひ  
は〜たり世をいひ人の衣む〜ハ事〜深よ〜也



〜と云。事ハ〜と云。深のあ〜と云。いひ  
は〜たり世をいひ人の衣む〜ハ事〜深よ〜也

